



TOHOKU

# EPO通信

[エポ]



東北環境パートナーシップオフィス



ストップ温暖化センターみやぎ主催の環境出前講話「国がなくなる?!～キリバス共和国と地球温暖化～」  
講師：ケンタロ・オノ氏（キリバス共和国名誉領事館 名誉領事・大使顧問）

## CONTENTS

- 特集インタビュー「森とともに生きる」
- ECO & 復興支援グッズ
- 東北6県 EPO トピックス

### 東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)とは

東北環境パートナーシップオフィス（略称：EPO東北）は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取組創出のきっかけ作りを担います。たくさんの方がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さまのパートナーシップ作りを支援します。

# 森とともに生きる

かん け とう いち  
菅家 藤一さん（間方生活工芸技術保存会会長）

福島県西部に位置し、尾瀬を源流とする只見川沿いの山間にある三島町。18か所に集落が点在し、冬は積雪が2メートルを超える豪雪地帯です。1年のうち5か月近く雪に閉ざされる地域ですが、雪国ならではの民具作りの知恵や四季ごとの年中行事が大切に継承され、現在もなお自然と共生する暮らしが続いています。

町内でも特に山深い間方集落で生まれ育った菅家藤一さんから、自然に寄り添いながら暮らす山村の生活についてお話を伺いました。



かん け とう いち  
菅家 藤一さん

昭和28年生まれ。現役の熊撃ち猟師（マタギ）。また、編み組細工の名手であり、初夏に自ら入山してブドウ蔓などの材料を採取し、冬期は手提げ籠などの製作を行っている。三島の山を知りぬく一人。

## ■山村の暮らし

**スタッフ** 間方集落について教えてください。極端に言うと、ここは外の地域との交流を遮断されても暮らしていけるような地域であると感じました。

**菅家さん** 自給自足できているから、間違いなく外との交流がなくても生きていける。ここの風土の特殊性は雪国であること。山村の生活では、1月～3月は農作業に使う道具作りの季節なんですね。昭和20年～30年代は、全部山の素材で作っていたの。そして3月には薪づくり

もやんなきゃならない。春木切りって言うんですよ。雪のあるうちに伐採して、春からもう次の冬の準備。ここは山菜が豊富だから、ゼンマイやワラビを採って塩漬けにしたり、乾燥したりして1年間家族が食べる分を保存しておく。昔は肉魚なんて食べられなかったあ。お正月に食べる鮭とか、親父が捕ってくる山鳥、ウサギ、それが楽しみだった。

**スタッフ** 春のうちから次の冬のための準備が始まるのですね。菅家さんの子どもの頃はどうか。

**菅家さん** まず春はゼンマイを採って現金収入。6月と秋は養蚕。それから炭焼き。12月からは猟で獣を捕って皮を売っていた。食べ物がないから春は野イチゴや桑の実、秋はブドウやコクワ（さるなし）の実、全部採ってきて皆で分けてね。手でイワナつかんだり。

**スタッフ** 今から大体50年前の話ですね。

**菅家さん** そう。昭和30年代は、冬は猟だね。中には出稼ぎに行った人もいたみたいだけど。滅多に肉が食べられないから、明日はウサギ狩りやるぞと言うと、部落の人たちが皆出てくるんだ。そうすると鉄砲を持っている人は射場に立って、持たない人はウサギを追う方に回る。捕れたらでっけえ鍋でウサギ煮て、やんやんや酒飲んで食った記憶がある。子どもの頃は、じさまが猟の仕方を教えてくれて、手伝うとお小遣いをもらえた。ムササビ1匹捕ってくると米一俵買えたって言ってたね。猟は大切な収入源のひとつだった。



## ■自然との勝負

**スタッフ** 菅家さんはマタギをされているんですよね。

**菅家さん** じさまも親父もマタギだった。俺も小学校出る前から親父に山へ連れていかれたし、中学生になるとじさまが火薬の詰め方を教えてくれた。熊を捕って来ると、部落の入り口で鉄砲一発撃つ習わしがあるのね。熊は山の神様だから、おまじないだべな。そうすると皆集まって来て解体が始まる。ただし、胆のうが高価なのね。だから肝臓を取り出すと声がかかると。一番大切なものを、それをやるのは俺。昔は漢方薬で、薬屋とか買いに来てたよ。

**スタッフ** 他にもしきたりなどはあるんですか。

**菅家さん** あります。今はやらなくなったけど、唱え言葉（毛祭りの儀式と呼ぶ）がある。それを唱えて初めて解体が始まる。俺が子どもの頃は、皆集まってお神酒を回し飲みしてたな。自然からは必要な分だけいただくのが原則なの。最近熊が出たと騒いで、駆除する頭数が多すぎる。射殺して埋めるだけ。悲しいことだ。昔は生活の糧だったからね。

「山に入っては、馬鹿にすんな」ってうちのじさまがよく言ってた。俺の場合は親父を早くに亡くしてっから、じさまやこの部落の年配の方々からいろんなこと教わった。ひと昔前のことを教わっているわけだ。秋田は春マタギだけど、ここは冬だから雪があって危険性も高い。その日その日で山は変わるし、危険も変わってくる。こういう時は山さ入ってダメだ、こういう所は気をつけるよってというのは経験した人たちからの口伝で伝わってるの。

**スタッフ** 菅家さんが山の怖さを知っているのに、山へ行くのはなぜですか。

**菅家さん** おもかげだな。例えば熊はね、出会いが楽しいの。お金なんて考えたことねえのね、ただ熊との勝負だから。ひとつのスリルであって、それがマタギの俺のやりたいこと。熊も賢いから人間に見つからないように足跡を消しながら行くわけだ。いろんな消し方あんのね。熊との駆け引き。ばかしあい。熊より利口になんねと熊捕れねえだ。向こうも命かけるし、五分五分の勝負。だから、最初は足跡隠されて、追いつかんねこと何回もあった。いまは熊の行動が分かって先回りしちゃうけど

ね。動物捕る時はすべて駆け引きだよ。動物はね、弱肉強食の世界で生きてるから、皆自分の身を守るための行動をする。これは誰に教わんなくても自然の中から自然に学ぶこと。

## ■先人たちに学ぶ

**スタッフ** 自然は恩恵もあるけれど、危険な部分もあります。菅家さんのような感性を磨くにはどうしたらよいでしょうか。

**菅家さん** たくさんやることだな。山を数かけて歩けば、自然と身につくの。人間にはそれぞれ癖があるでしょ。山にも山の癖がある。いろんな山があるから、全部感覚が違うのね。最初は分かんないから今回はここので、今度来た時は300メートル奥まで入ってみる、そうやって開拓してきたから頭の中に地図がある。何でも経験すると自然に分かってくる。

2011年の東日本大震災で、4月に片づけにあちこち行ってみたけど、やっぱり自然って怖いと思った。人間なんてちっちゃいんだな。経験がないと自然の怖さを知らないかもしれない。でも人間は自分に経験がなくても、昔からの経験の積み重ねがあるんだから、じいちゃん・ばあちゃんからの教えを守っていかねえと。その土地で生きていくための知恵は必ずあるはずなんだ。俺だって山を歩いて、じさまが言ったことを忘れて守んなかったら怪我するわけだ。

**スタッフ** 先祖が残したものの意味は大きいですね。

**菅家さん** やっぱり先人たちが生活した山なんだからね。我々なんてたかだか50年くらいでしょ。先人たちは何百年も重ねて歩いてきて、その言葉が伝わってんだから、それを大事にすべき。壊れた家は再建できけど、命はできねえんだから。

インタビューを通して、菅家さんが山に対する畏怖と山から恵みをいただくことへの感謝の気持ちを持ちながら生きていると感じました。昔から受け継がれてきた自然と向き合う知恵や暮らしから、持続可能な社会を考えるヒントを学び取ることができるのではないのでしょうか。

# ECO&復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ（マイバッグなど）

## 01. aqua drop charm

aqua labo kesenuma は、気仙沼の海をイメージしたハンドメイドアクセサリーブランドです。

aqua drop charm は、気仙沼の海に浮かぶビン玉をモチーフにしています。震災のときお世話になった方々に、気仙沼を思い出してもらえるものを贈りたいという想いからこのグッズが誕生しました。

手にした方に気仙沼の綺麗な海を感じてもらえたら嬉しいです。

■問い合わせ先 / **aqua labo kesenuma**

宮城県気仙沼市古町 1-9-18-101

Email : aqua.labo.kesenuma@gmail.com

<http://www.aqua-labo-kesenuma.com>



■価格 1,800 円 (税込み)

## 02. EAST LOOP ハートブローチ

東日本大震災で被災された方々によって手づくりされたニット製のブローチ。被災地と世界中の人々の“想い”が重なるイメージで「ハート」を二つ重ねたデザインです。岩手県の陸前高田市・釜石市・大槌町などで被災者の方々が制作しており、商品の台紙には、「made in 陸前高田 by ジャスミン」など作り手さんのニックネームと生産地を示す地図を記載しています。商品代金の50%が生産者グループに届きます。

■問い合わせ先 / **合同会社東北クロッシェ村**

〒028-0776 岩手県遠野市上郷町板沢11-6-6  
旧上郷中学校校舎内

TEL : 0198-68-3770

FAX : 0198-68-3770

Email : info@tohoku-crochet.com

<http://tohoku-crochet.com/index.php>



■価格 800 円+税

## 03. いっしー グローブホルダー付きバッグチャーム

『可愛い』『好き』から始まる応援のカタチ。気仙沼、仙台、石巻3地域のメンバーが制作。ミシンが初めてという方も「デパートで売れるもの作り」を目指しています。

主にデパート、お教室、乗馬クラブ、競馬場、ブティックなどで販売中。「STORY 7月号」巻頭頁にも登場。大人がバッグにつけて東北を応援するアイコンとして首都圏他大ブレイク中。

いっしーは全て生地もおリボンもこだわり抜いた素材をお使用しています。

■問い合わせ先 / **いっしープロジェクト ヤングナイト(株)内**

東京都台東区下谷 1-5-6

TEL : 03-5828-0540

FAX : 03-5828-0542

Email : shop@young-knight.com

<http://issie.net/>



■価格 4,800 円+税

## 青森

AOMORI

### 学ぶ心の芽を育みたい

ビジターセンターならではのインタープリテーションプログラムを提供して、自然と共に生きる大切さを伝えています。

青森県白神山地ビジターセンターは、世界自然遺産として登録された白神山地の自然環境及び自然と共存する人々の暮らしを紹介することにより、自然保護思想の普及を図るとともに、自然環境その他に関する活動及び交流の場を提供するため、青森県が平成10年（1998年）10月に設置した施設です。

私たちは長い間、自然とのかかわりの中で社会を構築してきました。

しかし、近年ライフスタイルの変化から、自然とのかかわりや自然とのふれあいが減少している傾向にあります。

このことから、ビジターセンターでは自然の素晴らしさや大切さを体験的に身につけてもらうため、以下の3つのインタープリテーションプログラムを立ち上げ展開しています。

#### ①ビジターセンターインタープリテーション

展示ホールや映像体験ホールなどにビジターセンター館内で、白神山地の誕生から生物・植物の営みなどを学びます。



#### ②トレッキングインタープリテーション

「世界遺産の径 プナ林散策道」や「プナ巨木ふれあいの径」などの散策道をトレッキングしながら白神山地の自然の雄大さを体感します。



③インタープリテーションフィールド  
ビジターセンターが管理する「遊々の森」で植樹やネイチャーゲームなどを体験します。



#### 青森県白神山地ビジターセンター

<http://www.shirakami-visitor.jp/>

☎036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1

■TEL : 0172-85-2810 ■FAX : 0172-85-2833 ■Email : shirakami@aomori-pfau.or.jp

## 岩手

IWATE

### これからの復興まちづくりは、村民自らの手で。

被災地の中では復興速度が速いと言われる野田村。だからこそ、村民自らの気持ちや行動に前向きな変化が生まれ、「良い芽」が育つ活動を続けます。

わたしたちのメインの活動は、村の生業、暮らしの知恵、文化などをツールとして村内外での交流を育む体験交流事業です。その中でも、実際に民家に泊まる「民泊」は、コアなリピーターファンを生むツールとなっています。4月からは村民が教授、学びのフィールドは村全体という風変わった“野田村大学”を開学しました。現在入学者は40名ほど。もともとはボランティアで来村していたり、隣町の久慈市のあまちゃんのファンだったりしますが、野田村の外側だけでなく、村民の心にふれることで、村民の気持ちを配慮した上でのまちづくりに関わる、「じぶんごと」として考えてくれる、素敵な学生が多数在籍しています。この事業の肝は、「村民自身の誇りの再生・構築」です。人がプラスの気持ちに



なれるときは、「自身の存在価値を存分に体感しているとき」だと思うのです。ありふれた日常（生業や、暮らしの知恵など）を、素晴らしいと感じてくれる人が目の前にいる。最初は過度なおもてなしをしようとしてしまいましたが、段々と、喜んでくれるのは「実は自分自身が普段ふれているもの」だと気づきます。外部の交流人口を増やし外貨を稼ぎ、村の存

続を現実的に見据えることももちろん大事ですが、わたしたちは、「今暮らしている村民」の「芽」を、どんどん育てていくことも、野田村の未来につながる一つなのでは、と考えています。「誇りと自信」を持って、村民の方々と未来を紡いでいきたいです。



#### NPO法人のんのりのだ物語

[http://blog.livedoor.jp/nonnori\\_story/](http://blog.livedoor.jp/nonnori_story/)

☎028-8201 岩手県九戸郡野田村7-1161

■TEL・FAX : 0194-75-3981 ■Email : nonnori.noda.story@gmail.com



## 宮城 MIYAGI

### 園舎は森 こどもたちが心と体を育てる森のようちえん

こどもたちが自然の中でのびのびと自分を育てられるように、そして、森のようちえんを宮城・東北にも広めるべく、仙台・多賀城で活動中。

「森のようちえん」とは、自然を園舎に、こどもたちがのびのびと遊び、感じて、自ら考え行動することを大切にしている幼児教育・保育の考え方です。「ようちえん」とは幼稚園だけでなく、自主保育、自然学校など様々な形を指します。2005年には、全国の実践者を始めとして森のようちえんに関わる方々が集う「第一回森のようちえん全国交流フォーラム」がくりこま高原自然学校（宮城県）にて開催され、2008年には「森のようちえん全国ネットワーク」が設立されました。草の根から始まった活動ですが、近年は長野県や鳥取県を始め行政も取り組みを始めるなど、日本全国で広がりをを見せています。

森のようちえんは、よほどの荒天でない限り、雨の日でもカッパを着て自然の

中で過ごします。様々な季節、天候、それによって移ろいゆく生きものたちに触れることで、こどもたちが持っている感覚や言葉がどんと開放されてゆくように感じます。

虹の森は、2013年より本格的に活動を開始。2016年度は、平日に週3日通うようちえん、月2回の親子クラス、休日は、幼児、小学生対象に1日森で過ごす活動、年4回の親子キャンプなど、多賀城・仙台を中心に宮城県内で活動しています。

ひとりでも多くのこどもたちに、自然の中で過ごす時間を持ってもらえたらと活動していますが、東北ではまだまだ広がっていません。手先の器用さや目に見える形を追い求めるのではなく、こどもたちの心、気持ちやその先につながる学

びの土台を育てる場を広めていきたいと思えます。



森のようちえん虹の森（くりこま高原自然学校）  
<http://kurikomans.com/nijinomori/>

☎981-3225 宮城県仙台市泉区福岡字西森下39-13  
☎TEL：022-343-6479 ☎FAX：022-725-2772 ■Email：nijinomori@kurikomans.com

## 秋田 AKITA

### 未来の八郎湖再生を担う人材を育成 八郎湖流域の環境学習と地域づくり

伝説の龍・八郎太郎が棲むという、八郎湖。地域住民に親しまれた、豊かで身近な里湖を取り戻す。

NPO法人はちろうプロジェクトは、秋田県の八郎湖流域における環境学習や、流域で活動する住民団体との連携づくりを中心に活動する団体です。

八郎湖は約半世紀前の干拓事業によって環境が一変し、現在はアオコや外来魚などの環境問題に悩まされ、地域住民もほとんど近寄らない「遠い湖」になってしまいました。現在私たちが力を入れているのは、八郎湖の再生を担う若者を育成することです。秋田県が10年以上前



から取り組んできた「環八郎湖環境学習」事業によって、延べ1万7千人の子どもたちが八郎湖に触れ、学んできました。初期に環境学習を受けた子どもが、大学生となって八郎湖の研究をするという事例も出てきています。こうした事例がさらに増えるよう、若者向けにも環境学習のプログラムを考えているところです。

最近は地域づくりに関心を持つ若者が増えて来た一方で、地域でもそういう若

者と交流したいという希望が強まっています。昨年度は地域の盆踊り復活のプロジェクトに協力し、地域の皆さんとその孫世代、大学の留学生などが交流する場を作りました。

このように、はちろうプロジェクトは、県・学校・地域などと連携しながら環境学習や環境活動、地域づくり活動を支援し、八郎湖流域がよりよい方向に向かっていくための仲介役として日々がんばっています。



特定非営利活動法人はちろうプロジェクト  
<https://www.facebook.com/hachipro865>

☎018-1502 秋田県潟上市飯田川下虻川字道心谷地17-4 トーセキマテリアル2F  
☎TEL：018-874-8686 ☎FAX：018-874-8686 ■Email：info@hachiro865.net

# 山形

YAMAGATA

## 産学官民、全員参加の海岸清掃。飛島クリーンアップ作戦16年の成果。

山形県酒田市の沖合39km、周囲10.2km、人口210人あまりの小さな島、飛島。  
2001年、押寄せた海ごみとの闘いが始まった。

### ■海の恵みとごみを運ぶ海流

飛島の周囲を流れる対馬海流は南方の温かい海水、イカやトビウオ等の海の幸を運んでくる。大量生産、大量消費社会が進むにつれ、迷惑な海ごみも運んでくるようになってしまった。

特に島の西側の海岸は冬の強風を受けるため、日本の渚百選に選ばれる景勝地でありながら、多量のごみが押し寄せ、島民を困らせていた。

### ■産学官民で取組む清掃活動

2001年、県と市が島民と観光客の要望を受け、ボランティアによる清掃作戦を始める。翌2002年からは行政に加え、NPOや民間団体が参加する、産学官民が連携した実行委員会形式に引き継がれた。当法人も第1回から参加し、第2回以降、事務局を担っている。毎年5月の最終土曜日、250人が参加する活動は2016年で16回目を迎えた。

### ■清掃活動の成果と課題

15年以上の取り組みの中で、西海岸は本来の姿を取り戻しつつある。一度清掃すれば、浜の地面が見えるまで回復してきた。しかしながら海へのごみ流出を止めない限り、毎冬流れ着く海ごみとの闘いは終わらない。マイクロプラスチック(5mm以下のプラスチック片)の話題が取りざたされ、深刻化の一途をたどる海ごみ問題。根本的に解決するには、大量消費社会を見直し私たちのライフスタイルを変えていく必要がある。



2004年の飛島西海岸、台風通過後の田下海岸の様子



2014年の飛島クリーンアップ作戦の様子



2014年の飛島クリーンアップ作戦後の田下海岸の様子

特定非営利活動法人 パートナーシップオフィス  
<http://npo-po.net/>

■〒998-0859 山形県酒田市大町13-1

■TEL : 0234-26-2381 ■FAX : 0234-28-8191 ■Email : npo-po@nifty.com

# 福島

FUKUSHIMA

## 福島県の環境教育への取組

～環境創造センターとふくしま環境教育支援認定・登録制度について～

### ■福島県環境創造センターにおいでください！

福島県では、原子力災害からの環境を回復し、県民が将来にわたり安心して暮らせる環境を創造するための総合的な拠点として、福島県環境創造センターを整備し、三春町(本館、研究棟、交流棟)、南相馬市(放射線監視)、大玉村(野生生物)、猪苗代町(水環境)に各施設を設けました。

同センターは、「モニタリング」、「調査・研究」、「情報収集・発信」及び「教育・研修・交流」の4つの機能を有しております。

7月21日にオープンしました交流棟「コミュニティ福島」では、体験型の展示や360度の映像を体験できる全球型の環境創造シアターで福島県の環境や放射線について学べます。子どもから大人まで

誰もが楽しめ、環境について考えることのできる福島県環境創造センターにぜひおいでください。

### ■ふくしま環境教育支援認定・登録制度について

福島県では、平成28年度より「ふくしま環境教育支援認定・登録制度」を開始しました。従来の「体験の機会の場の認定」に加え、福島県内で環境保全・回復に関する出前授業や自然体験活動等の環境教育を行う民間団体、事業者を「環境教育サポート団体」として登録する制度です。認定・登録団体の情報等は県HPに掲載する他、チラシの作成・配布等を行う予定です。この制度を活用し、地域での環境教育にご活用ください。また、環境教育サポート団体の登録もお待ちしております。

【開館時間：9:00～17:00 休館日：毎週月曜(祝日の場合火曜日)、12/29～1/3 入場無料】



① 野生生物共生センター(大玉村)  
② 猪苗代水環境センター(猪苗代町)

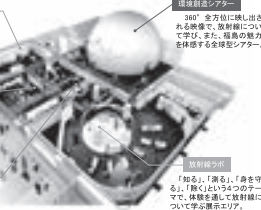
### 【コミュニティ福島展示室】



環境創造センターへ向けに自分ができること、みんなができることへの意識を醸成する展示エリア。



原子力発電所の事故からの福島への歩みを伝える全球型の環境創造シアター。



360° 全方向に映し出される映像で、放射線について学び、また、福島県の環境保全を体験する環境創造シアター。

ふくしまの環境のしくみを知ってもらう展示エリア。

「知る」「知る」「知る」。「知る」「知る」「知る」という3つのテーマで、体験を通して放射線について学ぶ展示エリア。

### 福島県 生活環境部

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16

■環境創造センターに関すること TEL : 0247-61-6111

■認定・登録制度に関すること(生活環境総務課) TEL : 024-521-7156



## ● Web-Siteのご案内

- ◆ お役立ち情報：環境助成金情報、エコの日一覧
- ◆ 随時更新：お知らせ、活動報告、日記

お知らせページでは、環境省や東北6県のイベント・募集情報を告知しています。スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先のレポートが人気です！

## ● EPO東北オフィス利用案内

### ◆ 各種パンフレットやイベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しております。自由に閲覧いただけますのでお気軽にお立ち寄りください。また、チラシ等設置をご希望の方は持参または郵送でお寄せください。

### ◆ ミーティングルームのご案内

環境活動、震災復興支援活動のミーティングや小規模セミナーにご利用いただけます。ご希望の方は電話・メール等で事務局までご相談ください。

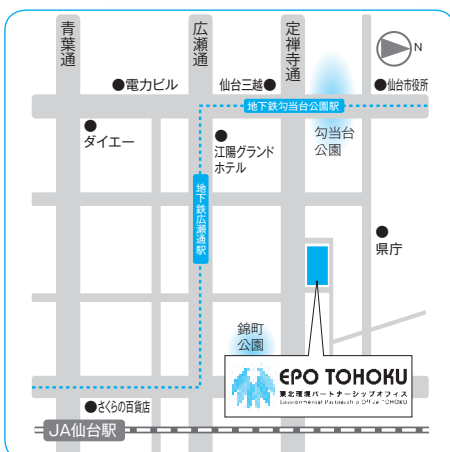
- 開館：月～金（祝日を除く）
- 利用時間：10:00～18:00
- 利用人数：12名まで

## ● EPO東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	<a href="http://www.eco-aomori.jp/">http://www.eco-aomori.jp/</a>
ECO リパブリック白神	<a href="http://shirakamifund.jp/">http://shirakamifund.jp/</a>
環境パートナーシップいわて	<a href="http://www.iwate-eco.jp/">http://www.iwate-eco.jp/</a>
環境あきた県民フォーラム	<a href="http://www.eco-akita.org/index.html">http://www.eco-akita.org/index.html</a>
あきた地球環境会議	<a href="http://www.cееakita.org/">http://www.cееakita.org/</a>
環境ネットやまがた	<a href="http://eny.jp/">http://eny.jp/</a>
超学際研究機構	<a href="http://www.chogakusai.ecnet.jp/">http://www.chogakusai.ecnet.jp/</a>
せんだい・みやぎNPOセンター	<a href="http://www.minmin.org/">http://www.minmin.org/</a>
環境会議所東北	<a href="http://kk-tohoku.or.jp/">http://kk-tohoku.or.jp/</a>
仙台広域圏ESD・RCE	<a href="http://rce.miyakyo-u.ac.jp/">http://rce.miyakyo-u.ac.jp/</a>
環境パートナーシップ会議	<a href="http://www.epc.or.jp/">http://www.epc.or.jp/</a>

EPO東北は東北地方環境事務所（環境省）と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）が協働して運営しています。



# EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス  
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎1F  
TEL 022-290-7179 FAX 022-290-7181  
E-mail : [info@epo-tohoku.jp](mailto:info@epo-tohoku.jp) URL : <http://www.epo-tohoku.jp/>

勤務時間：月曜～金曜日【9:30～18:00】  
閉館日：土日祝日・お盆・年末年始

発行日：2016年8月



リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

### メールマガジン登録者募集中！

発行頻度：第2週と第4週毎月2回  
登録料：無料

内容：助成金・イベント情報、  
EPO東北の活動情報など  
環境にまつわるお知らせ  
登録方法：EPO東北のウェブサイトより



### 環境イベントの告知を行います！

催事情報をEPO東北のウェブサイト、メールマガジンなどでご紹介させていただきます。また、チラシを持参または郵送いただいた場合は、オフィス内に設置いたします。環境イベントを企画している皆さま、ぜひ事務局まで情報をお寄せください。